

# 25PB-pm274S

地域包括ケアシステムの概念を意識した早期臨床体験の実施とその評価

○藤井 俊成<sup>1</sup>, 串畑 太郎<sup>1</sup>, 西川 智絵<sup>1</sup>, 栗尾 和佐子<sup>1</sup>, 安原 智久<sup>1</sup>, 曾根 知道<sup>1</sup> (<sup>1</sup>摂南大薬)

【目的】早期臨床体験において将来の薬剤師のあるべき姿を知ることは、薬剤師の職能の更なる理解と今後の学修意欲の向上に重要である。本研究では、2015年に厚生労働省により公表された患者のための薬局ビジョン～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～の内容を踏まえ、地域包括ケアシステムの概念を意識した独自の早期臨床体験を実施し、その学習方略としての評価を検討する。

【方法】2016年度1年次生217名は、早期臨床体験として病院・薬局を訪問した。訪問前に地域包括ケアシステムに関するSGDを実施し、事前学習と実際に見聞・体験した内容を元に討議した。その後、課したレポートをテキストマイニングにより分析した。分析にはKH Coderを用い、形態素解析で得られた頻出語、複合語について最小出現数40、Jaccard係数0.3以上で共起ネットワーク分析を行った。

【結果】病院レポートの共起ネットワークでは、「医師」は「薬剤師」と共起関係で結ばれ、「看護師」「連携」「チーム医療」と同じグループを形成した。さらに頻出複合語として「チーム医療」「電子カルテ」「コミュニケーション能力」が抽出された。また薬局レポートの共起ネットワークでは、「薬局」「地域」「病院」「薬局薬剤師」で形成されたグループにおいて、「病院」と「薬局薬剤師」の間で共起関係が描画され、頻出複合語として「お薬手帳」「在宅医療」「高齢者」が抽出された。

【考察】病院・薬局レポート双方で、1年次生が学ぶ基本的な薬剤師業務の記述ができていることに加えて、薬局レポートでは今回早期臨床体験に取り入れた地域包括ケアシステムに関する発展的な内容の記述も示唆された。今後、学習方略としての評価をさらに深めるために、学生個人の単語の選び方、施設や見学内容の差がもたらす記述内容への影響をクラスター解析により明らかにする。